

# 論壇

## 欧州諸国と比較にならず

先日出張で訪問したスペインで興味深い話を聞いた。スペインは人口4600万人ほどであるが、1年間に外からやってくる来訪者はおよそ6500万人だという。もちろんその大半は観光客だろう。観光大国というフランスが有名だ。確かに、フランスには年間8370万人の人が海外からやって来る。世界最大の観光客受け入れ人数である。ただ、フランスの人口は6600万人ほどであるので、人口1人当たりの観光客数でいえば、スペインの方が多

東大教授(国際経済学) 伊藤 元重

### 観光を日本の基幹産業に

観光振興策で今年末には1900万人近くまで増える見通しだ。ずいぶん観光客が増えたと感じる人が多いだろうが、スペインやフランスに比べればまだまだ少ない。

10年や20年かかるだろうが、日本への観光客の数を3千万人が

ことになる。

そのスペインでも30年くらい前までは、観光客の数は1千万人程度であったと、現地の日本大使館の方が言っていた。この30年の間に大幅に観光客が増えて、観光大国になったのだ。ちなみに日本は、2012年の頃は850万人の訪日客数であったのが、安倍内閣の

他の欧州諸国にも外国人観光客が多くなるようだ。イタリアには4800万人、ドイツには3300万人、イギリスには3260万人の観光客が来るといふ。いずれも日本への観光客の数とは比較にならない。

容易に想像できるように、欧州

諸国でこれだけ多くの観光客が来るのは、欧州の中で多くの人が動いているからだ。それだけ欧州内の交通網が発達しており、そして欧州の多くの人は簡単に国境を越えて動くだけの豊かさを持っている。学生でも休みのときにはフランスやスペインに出かけ、高齢者も寒い時期にはイタリアに行く。いろいろな会議やイベントが欧州内で行われており、そこに欧州の他国から多くの人が来るのだ。

腰を据えた取り組み必要

アジアもそうだった時代に少しずつ近づきつつある。ある機関の推計によると、アジア全域で過去10年に中間所得層と富裕層の数が8億人ほど増えたという。これから10年でさらに10億人増えるという

推計もある。こうした人たちは、積極的に国境を越えて海外に行くところだろう。

大交流時代とも言われるが、こうした流れが今後も続くとするならば、10年後とは言わないが、20年後あるいは30年後には日本に来る訪日客が年間に5千万人を超えるということだ。十分にあり得ることだ。

先日、中部国際空港に行く機会があった。ターミナルの屋上から見ると、中国や香港やマレーシアなどの格安航空(LCC)が次々に発着している。そこからは大量の観光客がはき出されてくる。こうした流れが一つの流れで終わるとは思われない。観光推進に腰を据えて取り組む必要があるだろう。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。